

引換ヲ要スルカ又ハ不用ニ屬スルトキハ其事由ヲ詳記セル返納書ヲ添ヘ之ヲ還付ス可シ

第十一條 物品會計吏物品取扱主任ハ出納帳簿ヲ備ヘ其形質數量出納ノ事由年月日納入受領人等ヲ詳細ニ記入スヘシ

第十二條 物品取扱主任ハ毎月五日限り前月中仕拂ヒタル物品ノ明細表ヲ物品會計吏ニ差出シ物品會計吏ハ之ヲ取纏メ十日限り市長ニ差出ス可シ

第三章 保管 賠償

第十三條 貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ鎖鑰アル倉庫又ハ貯藏所ニ納入シ物品會計吏又ハ物品會計吏ノ委任シタル吏員ニアラサレバ開閉スルヲ得ス

第十四條 貯藏ノ物品ハ毎年一回若クハ物品會計吏交

替ノ際物品會計吏市長ノ特命シタル吏員立會ノ上現品及出納ノ實況ヲ調査シ其調書ヲ作ルモノトス

第十五條 凡ソ貯藏ノ物品ハ物品會計吏各自使用ニ係ルモノハ該課物品取扱主任各自使用ノ分ハ各自之ヲ保管スヘシ

第十六條 物品會計吏ハ各課ヘ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責ヲ有シ物品取扱主任ノ各自使用ノ分ニ於ケルモ亦同シ

第十七條 保管ノ責アル吏員ハ故意怠慢ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任ス可シ

第十八條 直接ニ保管ノ責ナシト雖モ故意怠慢ニ原因シタル物品ノ亡失毀損ハ仍ホ前條ニ據ル

第十九條 辨償ノ金額ハ買入代價ニ依リ買入代價ノ知

レ難キモノハ鑑定人ヲ選ヒ之ヲ定ムヘシ
 第二十條 辨償ヲ命セラレタル者ハ發令ノ日ヨリ五日
 以内ニ納入スヘク若シ辨償金巨額ニシテ一時ニ納入
 シ難キ事情アルトキハ其旨ヲ申出テ指揮ヲ請テ得
 第二十一條 辨償ヲ命セラレタル吏員ニシテ負擔ノ責
 ヲ免ル可キ理由アリト信スルトキハ證憑書類ヲ添ヘ
 再審査ヲ求ムルヲ得此場合ト雖モ徵收ヲ猶豫セス
 第二十二條 再審査ニ於テ辨償ノ責ナシト決シタルト
 キハ辨償金ハ直ニ之レヲ還付ス

第四章 雜 則

第二十三條 本則ニ於テ使用スル帳簿報告書等ノ種別
 様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十二類

給 與

○俸給支給規則

二十二年七月
規則第一號

二十四年
四月改正

二十九年
五月改正

第一條 年俸ハ之ヲ十二分シ毎月之ヲ支給スルモノト
 ス

第二條 年俸及月俸ハ毎月二十六日日給ハ每月末日ヲ
 以テ支給シ休日ニ當ルトキハ繰上ルモノトス

但年俸及月給ハ十二月ニ限り二十日ニ繰上ケ支給
 ス

第三條 日給ハ勤務日數ニ依リ支給スト雖モ休日ハ勤
 務日數ニ加算ス

但シ缺勤中ニアル休日ハ此限ニアラス

第四條 新任ノトキハ就職ノ當日増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ支給ス

第五條 免職又ハ死亡ノトキハ其月ノ全額ヲ支給スルモノトス

但シ日給ノモノハ此限ニアラス

第六條 免職ノトキ殊ニ事務引續ノ命ヲ受ケ職務ニ從事スルモノ翌日ニ亘ルトキハ其間尙従前ノ給額ニ依リ日割ヲ以テ給與ス

第七條 願濟旅行又ハ私事ノ故障ニ由リ職務ニ服セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ六十日以後ハ全額ヲ給セサルモノトス

但休暇或ハ忌引ハ減俸ノ限リニアラス

第八條 病氣ノ爲メ服務セサルモノ六十日以後ハ日割

ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ九十日以後ハ全額ヲ給セサルモノトス

但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第九條 第七條ノ場合ト第八條ノ場合ト相續テ起ルトキハ第七條ニ始マリ第八條ニ終ルモノハ其間ヲ通算シ六十日ノ後半額ヲ減シ九十日ノ後半全額ヲ給セス第八條ニ始マリ第七條ニ終ルモノハ其間ヲ通算シ三十日ノ後半額ヲ減シ六十日ノ後半全額ヲ給セサルモノトス

第十條 日割計算ノ法(年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ)ハ其月ノ現日數ニ割合ヒ計算スルモノトス

第十一條 日給職工ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ

第十二類 給與

○市長功役給料 ○收入役給料並ニ身元保證金額
○市長及參事會長交際費

一九二二

俸給ノ外一時間毎ニ日給八分ノ一以下ノ手當ヲ支給
スルコトアル可シ

○市長功役給料

- 一 市長 年俸 貳千貳百圓 三十二年六月告示第八一號改正
- 一 助役 同 壹千五百圓 同 上 第八二號改正
- 一 同 同 壹千圓 三十四年六月告示第八七號

○收入役給料并ニ身元保證金額

二十二年七月 三十四年四月
告示第三號 告示第四九號改正

- 一 給料額ハ年俸九百圓トス
- 一 身元保證金ハ五百圓トス

但公債證書ヲ以テ代用スルヲ得

○市長及參事會員交際費

三十三年六月
告示第九九號

市長交際費ハ年俸ニ準シ俸給支給規則ニ保リ支給スル
モノトス

市參事會員交際費ハ實費拂トス

○市吏員及其他職員給料額規程

三十三年十一月
告示第一九九號改正

第一條 書記及技手ノ月俸ハ左ノ通り之ヲ支給ス

但最上給ヲ受ケ二年ヲ踰ヘ事務ニ熟練シ優等ナル者

ハ漸次月俸百圓マデ増俸スルコトヲ得

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 一級 上俸 七拾五圓 | 二級 上俸 六拾五圓 | 三級 上俸 五拾五圓 |
| 一級 下俸 七拾圓 | 二級 下俸 六拾圓 | 三級 下俸 五拾圓 |
| 四級 上俸 四拾五圓 | 五級 上俸 參拾五圓 | 六級 上俸 貳拾五圓 |
| 四級 下俸 四拾圓 | 五級 下俸 參拾圓 | 六級 下俸 貳拾圓 |
| 七級 上俸 拾八圓 | | |
| 七級 下俸 拾五圓 | | |

第二條 技師ノ月俸ハ左ノ通之ヲ支給ス

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 一級 上俸 貳百五拾圓 | 二級 上俸 百八十圓 | 三級 上俸 百四拾圓 |
| 一級 下俸 貳百圓 | 二級 下俸 百六拾圓 | 三級 下俸 百貳拾圓 |
| 四級 上俸 百圓 | 五級 上俸 八拾圓 | 六級 上俸 六拾圓 |
| 四級 下俸 九拾圓 | 五級 下俸 七拾圓 | 六級 下俸 五拾圓 |
- 第三條 通譯及雇ノ給料ハ左ノ範圍内ニ於テ月俸又ハ

日給ヲ以テ適宜之ヲ支給ス

通譯 月俸 七拾五圓以下

雇 月俸 貳拾五圓以下

第四條 十全醫院萬治病院ノ院長副院長及醫員ノ給料ハ
ハ毎年度豫算表ノ定ムル所ニ依リ其他職員ノ給料ハ
左ノ範圍内ニ於テ月俸又ハ日給ヲ以テ適宜之ヲ支給
ス

調劑掛 月俸 五拾圓以下

十全醫院看護人同 貳拾五圓以下

萬治病院看護人日給 貳圓以下

第五條 職工使丁及門番ノ給料ハ毎年度豫算表ノ定ム
ル範圍内ニ於テ月俸又ハ日給ヲ以テ適宜之ヲ支給ス

附 則

第六條 本規程發布後更ニ辭令書ヲ交付セザル者ハ當
分ノ内舊規程ニ依ル

○旅費支給規程 三十二年四月 三十四年十一月
告示第四五號 告示第一八一號改正

第一條 旅費ハ市ノ公務ニ依リ旅行スルトキ其旅行中
一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條 旅行ヲ分テ五等トシ甲號表定ムル所ニ由リ順
路ノ路程ニ應シテ支給ス但特ニ經過スヘキ路次ヲ指
定シタル場合ハ其路程ニ依ル

第三條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日
當ハ日數宿泊料ハ宿泊數ニ應シテ支給ス

第四條 日當ハ陸路六里未滿汽車十里未滿汽船十海里
未滿ノ旅行ニハ支給セス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ
要スルトキハ此限ニアラス

- 第五條 汽車賃汽船賃車馬賃ハ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ支給ス但一位未滿ノ端數ノ路程ハ切捨トス
- 第六條 解職ノ際事務引繼又ハ殘務取調其他公務ノ爲旅行セシムル時ハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第七條 水道工事又ハ同線路ノ巡回其他測量土木工事等ノ爲メ出張久シキニ涉リ里程等ノ算出シ難キ場合ニハ日當并ニ宿泊料ノ程度以內ニテ積算シ適宜月額旅費ヲ支給ス
- 第八條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ係ハラス其到着シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

- 第九條 名譽職市參事會員市會議常設又ハ臨時ノ委員等旅行スルトキハ本規程ニ依リ一等旅費ヲ支給シ又ハ其實費ヲ辨償スベシ
- 第十條 有給吏員ノ旅費ハ臨時止ムヲ得サル場合ニアラサレハ特ニ實費拂ト爲スコトヲ得ス但市費ヲ以テ車馬ヲ供給スルハ隨行又ハ急行ヲ特命シタルトキ若クハ暴風雨ノ時ニ限ル
- 第十一條 市内出張ヲ常務トスル土木吏員ニ在テハ一日ニ付金貳拾錢ノ日當ヲ支給ス
- 第十二條 書記附屬員ノ市内出張ニ就テハ其順路ノ里程ニ依リ乙號表ニ定ムル車馬賃ヲ支給ス但十條ニ依リ車馬ヲ供給シタル場合ハ此限リニアラズ
- 第十三條 書記附屬員ノ市内出張四時間以上ニ亘リタ

三等 一ヶ月金拾貳錢五厘

前二項ヲ除キタル事務ニ從事スルモノ

第三條 前條ノ等級ヲ異ニスル事務ヲ兼務シ又ハ其事
務ニ轉シタルトキハ當月分ノ文具料ハ金額ノ多キ等
級ニ據リ支給スルモノトス

第四條 職掌上高價ノ文具ヲ要スルモノアルトキハ市
參事會ノ議決ヲ以テ特ニ現品ヲ貸與スルヲ得

第五條 文具料ハ就職十五日以前ニ在テハ全月分十五
日以後ハ半月分免職死亡十五日以後ハ全月分十五日
以前ハ半月分ヲ支給スルモノトス

○市吏員賄料支給規程

二十二年十二月規則第九號
三十二年四月告示第四十號

第一條 宿直及夜業賄料左ノ通支給ス

市吏員 一回 金拾錢

職工及使丁類 一回 金八錢

但夜業ニ付増給ノモノハ此限ニアラス

第二條 宿直賄料ハ二回分ヲ支給ス

第三條 夜業賄料ハ午後八時ヲ過レハ一回分午後十二
時ヲ過クレハ二回分徹夜ニ至ルモノハ三回分ヲ支給
スルモノトス

○市吏員退隱料條例

三十年八月
條例第一號

第一條 有給吏員退職シタルトキハ此條例ノ定ムル所
ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權ヲ有ス

第二條 任期アルモノニ任期以上在職シ第一項乃至第
四項ノ一ニ當ルトキ任期キモノ滿十五年以上在職
シ第二項乃至第五項ノ一ニ當ルトキ及第六項ノ場合
ハ終身退隱料ヲ給與スルモノトス
一 任期滿限ニ至リ再選セラレザルトキ

キ者ニハ退職現時ノ俸給年額二百四十分ノ七十ト爲シ爾後在職滿一箇年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿三十五年ニ至テ止ム但其狀況ニ依リ市會ノ決議ヲ以テ其退隱料年額十分ノ三迄ヲ加給スルコトヲ得

第五條 退隱料ヲ受クルモノ再ヒ職ニ就キ滿一年以上在職シタル後退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退隱料ヲ支給ス

- 一 退職現時ノ俸給前後相同シカラザルトキハ前職年數ヲ後職年數ニ通算シ後職ニ對スル退隱料額ト前ノ退隱料額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
- 二 退職現時ノ俸給前後相同シキトキハ前後在職ノ年數ヲ通算シ第四條第一項ノ例ニ依リ加給ス

第六條 第二條ノ年限ハ裁可認可又ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス

但市制實施以前ニ溯ルコトヲ得ス

第七條 左ニ掲クル月數ハ在職年數中ヨリ除算ス

- 一 年齢二十歳未滿者ノ月數
- 二 日給雇職工使丁及看護人其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員勤務ノ月數
- 三 自己ノ便宜ニ依リ退職シ又ハ不都合ノ所爲アリタルカ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ之レカ爲メ免職シタルモノ再ヒ就職シタル場合ニ在リテハ前職ノ年月數

第八條 退隱料ヲ受クル者公權剝奪ヲ受ケ或ハ國民ノ分限ヲ失ヒ又ハ在職中ノ犯罪退職後ニ發覺シ禁錮以

上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其裁判確定若クハ失權ノ月ヨリ各退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

第九條 退隱料ヲ受クルモノ公權ヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定ノ月ヨリ退隱料ノ支給ヲ止メ解停ノ翌月ヨリ支給ス

第十條 二任期以上在職ノ市長助役收入役ニシテ市制第九條第二項第三項ニ依リ失職スルモ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ヲ除ク外其失職ノ月ヨリ退隱料ヲ支給ス

但第二條第六項前段ニ規定セル滿十五年以上ノ在職者ニシテ本條ニ該當シタルトキモ亦同シ前項以外ノ市吏員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニハ退隱料ヲ受ケルノ資格ヲ失フ

第十一條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十二條 退隱料ヲ受クル事由ノ生シタル後滿一箇年内ニ退隱料證書ヲ請求セサル者ハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

第十三條 退隱料ハ其年額ヲ二分シ六月十二月ノ兩度ニ支給ス

第十四條 退隱料ヲ受クル者滿一箇年以上請求ヲ怠リタル金額ハ之ヲ受クルノ權利ヲ拋棄シタル者ト爲ス

附 則

第十六條 本條例取扱規程ハ市參事會之ヲ定ム

○市吏員退隱料條例施行規程

三十年十一月
告示第一六七號

- 第一條 市吏員退隱料條例ニ依リテ差出スヘキ退隱料證書請求書ニハ市町村長(東京市京都市大阪市ハ區長)ノ證明セル戶籍寫ヲ添付ス可シ但橫濱市在籍者ハ此限ニアラス
- 市吏員退隱料條例第二條第二及第三條ニ依リ請求スルモノハ前項ノ他ニ醫師ノ診斷書ヲ要ス
- 第二條 退隱料ヲ受クルモノ其金額ヲ受領セントスルトキハ毎年六月及十二月ニ現住地市町村長(東京市京都市ハ區)ノ證明セル生存證書(橫濱市現住者ヲ除ク)ヲ添ヘタル請求書ヲ差出ス可シ但權利消滅若クハ支給停止ノトキハ此期限ニ拘ハラズ請求スルコトヲ得
- 第三條 市制第七十九條ニ當リタルモノハ退隱料停止支給開始ハ左ノ如シ
- 一 就職シタルトキハ其給料ノ支給ヲ受クル月ヲ以テ

- 支給ヲ終リ退職シタルトキハ給料ノ支給ヲ終リタル翌月ヲ以テ支給ヲ始ム
- 第四條 前條ニ該當スルモノハ其官職及給料ノ支給ヲ開始セラレタル日又ハ解職及給料ノ支給ヲ止メラレタル日ヲ届出可シ
- 第五條 市吏員退隱料條例第五條ニ當ルモノハ舊退隱料證書ヲ差出シ書換ヲ請求スヘシ
- 第六條 退隱料ヲ受クルモノ死亡シ又ハ權利消滅シタルトキハ其遺族及本人ヨリ届出且退隱料證書ヲ返納ス可シ
- 第七條 水火災盜難等ニ由リ退隱料證書ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シテ届出可シ
- 前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シテ退隱

料證書ノ謄本ヲ付與ス
 退隱料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス
 第八條 退隱料ヲ受クルモノ轉籍又ハ改氏名ヲ爲シタルトキハ市町村長(東京市京都市大坂市ハ區長)ノ證明ヲ受ケ届出可シ其改氏名ノ届書ニハ退隱料證書ヲ添付シ證書ノ裏面ニ記入ヲ受ク可シ

第九條 退隱料證書ヲ定ムルコト左ノ如シ

退隱料證書 第 番 號	
元職名	姓 名
年月日生	年月日生
退隱料年額金何圓	退隱料年額金何圓
市吏員退隱料條例ニ依リ前記	市吏員退隱料條例ニ依リ前記

一此證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス
 一本人改氏名シタルトキ又ハ水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ其旨ヲ届出ヘシ
 一本人死亡又ハ退隱料ヲ受クルノ權利消滅シタルトキハ本人又ハ遺族

而

ノ退隱料ヲ受クルコトヲ認め此證書ヲ附與ス
 明治 年 月 日
 横濱市參事會
 横濱市長 氏 名

而

ヨリ此證書ヲ返納ス可シ
 一表書ノ金額ハ毎年六月及十二月ニ共前六ヶ月分ヲ給ス每期ノ金額左ノ如シ
 一金何圓
 但明治何年月ノ給額ハ金何圓

○市吏員一時金支給規程 二十九年十月 規程第一號

第一條 任期アル市吏員一任期以上在職シ第一項乃至第三項ノ一ニ當リ退職シタルトキ任期ナキ市吏員滿四年以上在職シ第二項乃至第四項ノ一ニ當リ退職シタルトキハ一時金ヲ支給ス
 一 任期限ニ至リ再選セラレサルトキ
 二 不治ノ疾病ニ罹リ又ハ重傷ノ爲メ其職ニ堪ヘサルノ確証アルトキ

三 廢職セラレタルトキ

四 應務ノ都合ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第二條 一時金支給額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム任期
アル者在職滿六年ニシテ第一條ニ該當シ退職シタル
トキハ退職現時ノ俸給年額三分ノ一ト爲シ任期ナキ
モノ在職滿四年ニシテ第一條ニ該當シ退職シタルト
キハ退職現時ノ俸給年額ノ(月給ノ者ハ十二ヶ月ヲ以
テ積算シ)四分ノ一トナシ爾後在職滿一年毎ニ其支給
金額十分ノ一ヲ加ヘ任期アルモノ滿十一ヶ年任期ナ
キモノ滿十四年ニ至テ止ム

第三條 日給雇職工使丁及看護人其他雜給ヲ以テ支辨
スル者公務ノ爲メ篤疾ニ罹リ若クハ之ニ準スヘキ者
ニハ退職現時ノ俸給月額(日給ノ者ハ三十日ヲ以テ積

算ス以下同シ)二十ヶ月以上四十ヶ月以下ノ範圍内廢
疾ニ罹リ若クハ之ニ準スヘキモノニハ退職現時ノ俸
給月額十ヶ月以上二十ヶ月以下ノ範圍内ニ依リ一時
ニ支給ス

第四條 一時金支給金額位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第五條 一時支給金ヲ受ケタル者再ヒ就職シ爾後退職
シタルトキ第一條ニ掲クル在職ノ年數ハ其再任ノ月
ヨリ起算ス

第六條 市吏員退職料ヲ受クルモノ若クハ自己ノ便宜
ニヨリ退職シタル者又ハ不都合ノ所爲アリテ免職シ
併ニ懲戒處分又ハ刑事裁判確定シ之レガ爲メ退職シ
タルモノニハ本規程ノ一時金ヲ支給セス

○扶助料及祭祀料支給規程

二十八年九月
告示第六號

第一條 扶助料ハ分テ二種ト爲ス

一 療養扶助料

二 遺族扶助料

第二條 市吏員及使丁職工看護人公務ノ爲メ疾病若クハ傷痕ヲ受ケタル時ハ其療養中一日金五拾錢以上金壹圓以下ノ扶助料ヲ給與ス

第三條 市吏員及使丁職工看護人公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ死亡シタルトキハ最終俸給一ケ年分日給ノモノハ金額ヲ三ヲ一時扶助料トシテ其遺族ニ給與ス

第四條 扶助料ヲ願ハントスル者ハ其死亡者戶籍ノ寫及致死ノ原因ニ關スル醫師ノ證明書ヲ添へ出願ス可シ

第五條 遺族扶助料ハ市吏員死亡後滿一ケ年内ニ出願スヘシ若シ其年限ヲ經過スル時ハ之ヲ受理セス

第六條 市吏員及使丁職工看護人在職中死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ祭祀料ヲ給與ス

- 一 在職 二年以内ノ者ハ 現俸給額 二ケ月分
 - 一 同 四年以内ノ者ハ 三ケ月分
 - 一 同 六年以内ノ者ハ 四ケ月分
 - 一 同 八年以内ノ者ハ 五ケ月分
 - 一 同 十年以内ノ者ハ 六ケ月分
- 十年以上ハ在職滿二ケ年ヲ増ス毎ニ現俸給額一ケ月分宛ヲ遞加ス

○被服及屬具給與規定 三十三年六月 三十四年六月 告示第一〇三號 告示第八三號改正

第一條 被服及屬具ヲ給與又ハ貸與スヘキモノ左ノ如

シ

掃除監督長

同監視吏員

衛生掛員

土木技手及雇

給仕

使丁

瓦斯局徵集掛

第二條 給與スヘキ品目員數使用期限及支給期日左ノ如シ

品名	數量	種別	使用期限	支給期日	摘要
冬服	一	現品	自十月一日起至翌年五月三十日八ヶ月	十月一日	
夏服	一	同	自六月一日起至九月三十日四ヶ月	六月一日	但監督及監視井ニ衛生掛ハ特ニ二若ヲ給ス
外套	一	同	初年自四月十日至十二月末年自一月至翌年四月九日廿四ヶ月	四月十日	但使丁及給仕ハ給セス
帽子	一	同	自四月十月至翌年四月九日十二ヶ月	同	但給仕ハ給セス
同日履	一	同	同	同	但使丁ハ給セス
短靴	一	新任ノ際ニ限リ現品其他ハ代料	同	同	

長靴	合羽	襪頭笠
一	一	一
同	現品	同
同	初年自四月十日至十二月末年自一月至翌年四月九日廿四ヶ月	同
同	同	同
但使丁ハ給セス	但使丁ニ限り給ス	同

第三條 貸與スヘキ品目左ノ如シ

一 帽子 前章 一 釦

第四條 長短靴ノ代料ハ毎年度豫算ノ定ムル處ニ依リ四月十日迄ニ之ヲ支給ス

第五條 給與品ハ使用期限經過シタルトキハ本人ニ附與ス

第六條 給與品ノ修理ハ自辨トス

第七條 貸與品ハ其附着給與品ノ使用期限經過シタルトキハ速ニ之ヲ返納スヘシ但使用期限中破損シ使用

ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ代品若ハ修理ヲ加ヘ交
付ス

第八條 現品支給期日後新任又ハ復職ノモノニハ返納
品中ノ物品ヲ撰ヒ残月數ニ相當スルモノヲ給與ス

第九條 給與若クハ貸與セシ物品ハ物品會計吏ニ於テ
毎月又ハ臨時ニ點檢ヲナスコトアルヘシ

第十條 貸與品ハ免職轉職若クハ死亡ノ際ハ三日以内
ニ返納スヘシ使用期限ノ終ヲサル給與品亦同シ

但シ給與シタル代料ハ事故ノ生シタル月ノ翌月ヨ
リ起算シ月割ヲ以テ返納スヘシ

第十一條 自己ノ過失怠慢ニ依リ使用期限ノ終ヲサル
給與品及貸與品ヲ毀損亡失シタルモノハ給與品ハ其
使用期限残月數ニ應スル調製代價又ハ貸與品ハ其原

價ヲ辨償セシメ更ニ代品ヲ交付ス

但給與ニ屬スル毀損品ハ本人ニ交付ス

第十二條 第十條及第十一條ノ手續ヲ本人ニ於テ履行
セサルトキハ身元保証人ヲシテ其責ニ任セシム

第十三條 本規定ハ明治三十三年度ヨリ施行ス
但從前ノ規定ハ總テ廢止ス

第十三類

特別財産

○横濱貿易商組合財産横濱市へ贈與條件

二十八年十月
告示第一一五號

第一條 貿易商組合ハ貿易上必要ナル公共ノ機關ヲ設
備スル目的ヲ以テ團結シ從來財産ヲ所有シタルモノ
ナレハ今回此財産ヲ舉テ横濱市ニ贈與スルモ市ハ將

第十三類 特別財産 ○横濱貿易商組合財産横濱市へ贈與條件

來此財産及之ヨリ生スル益金ノ使用ハ專ラ其意思ヲ繼承シ組合ノ施設ニ係ル既成事業ヲ維持及未遂ノ企圖ヲ果スヲ以テ目的トナスヘキ事

第二條 貿易商組合會館ニ對シテハ左ノ事項ヲ舉行スルコト

一 貿易商組合會館ノ名稱ヲ横濱會館ト改ムル事

二 横濱會館ハ相應ノ修繕ヲ加ヘ永久之ヲ保存スル

事

三 横濱市又ハ本町外十三ヶ町ヲ代表スル祝典饗應

接待及從來ノ慣行ニ依リ貿易商組合ノ諸集會又

ハ事務所ニ貸與シアルモノ并ニ市參事會ニ於テ

認可スル慈善ノ會合等ニハ無代價ヲ以テ貸與ス

ル事

四 前項ノ外定期臨時ヲ問ハス諸集會等ニ之ヲ貸與

スルコトヲ得可シ

但豫メ市會ノ決議ヲ以テ其使用規則及使用料ヲ

定ムヘシ

第三條 共同倉庫ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併テ金

融ノ便ヲ謀ル目的ヲ以テ建設シタルモノナレハ横濱

市ハ現在ノ倉庫ヲ保存スルト同時ニ漸次規模ヲ擴張

スル方針ヲ取ルヘシ然レトモ市ハ直接ニ營利事業ニ

従事スルヲ得サルモノナレハ貸貸法ニ依リ相當ノ借

受人ヲ定メ市ニ代リテ該事業經營ノ任ニ當ラシムヘ

キ事但從來共同倉庫ノ貸借契約等ハ借受人ノ迷惑ト

ナラサル様横濱市ニ於テ改メテ借受人ト熟議ヲ遂ク

ヘキ事

第四條 横濱商業學校立替金八千七百五拾圓八拾壹錢九厘ハ横濱市ニ寄附スルヲ以テ市ハ更ニ本町外十三ヶ町ニ寄附スル事

第五條 改所建物ノ内海岸通四丁目西波止場ニアル一棟ハ運送營業人仲間ノ承諾ヲ得テ共有權ヲ繼續シ其他辨天橋大江橋柳橋豐國橋花園橋等ノ各改所ハ借受人ノ迷惑トナラサル様横濱市ニ於テ改メテ貸借契約ヲ締結ス可キ事

第六條 第七十四國立銀行小野商店大谷商店ヨリノ借入金ハ年七朱ノ利子ヲ添へ元金ト共ニ贈與財産中ヨリ辨濟スル事

○横濱貿易商組合贈與財産別經濟

二十八年十月 告示第一一六號

横濱貿易商贈與ニ係ル財産ハ横濱市特別財産ノ名稱ヲ

以テ其收支ヲ市費收支ト分別シ特ニ經濟ヲ立ツ

○倉庫及倉庫敷地並地所賃貸手續

二十九年一月 告示第四號

一 倉庫及敷地並ニ明地ノ内六百九十坪六合五夕六才ハ

左ノ條件ニ依リ賃貸スルモノトス

一 借主ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併セテ金融ノ便ヲ謀ル目的ヲ以テ借用スル者ニ限ル

二 賃貸料ハ年額金九千圓以上トス

三 借受保証金トシテ有價証券額面金貳萬圓ヲ差出スモノ

四 前項保証金ハ借主ノ故意又ハ過失ヨリ生スル損害並ニ違約ノ補償又ハ賃貸料滞リノ補填ニ充ツルモノトス

五 市參事會ニ於テ必要ナリト認ムル約定ヲナス事

- 六 貸付期限ハ契約締結ノ日ヨリ向フ三十ヶ年トス
- 地所賃貸手續
- 一 倉庫敷地ニ接續スル明地五百九十八坪九夕八才ハ左ノ條件ニ依リ賃貸スルモノトス
- 一 借主ハ貨物ノ集散授受ヲ容易ニシ併セテ金融ノ便ヲ謀リ又ハ商業上必要ナル公共ノ機關ヲ設備スル目的ヲ以テ借用スルモノニ限ル
- 二 賃貸料ハ一ヶ月一坪金四拾五錢以上トス
- 三 市參事會ニ於テ必要ナリト認メタル約定ヲナス事

第十四類

水道

○横濱市水道給水規則

三十一年二月
告示第一二號

第一章 通 則

第一條 横濱市水道用水(以下單ニ用)供給ノ種類分チテ三種トス

第一種 家事用 飲料、燂炊、洗滌、沐浴等普通家事用ニ供スルモノヲ云フ

第二種 例外用 家事用ニアラスシテ商業、製造、洗滌、船舶、牛馬、馬車等ノ用ニ供スルモノヲ云フ

第三種 特別例外用 噴水、泉、庭池、園圃撒水若クハ前掲ノ外他ノ諸用ニ供スルモノヲ云フ

第二條 用水供給ノ方法分チテ二種トス

第一種 放任供給 水量ヲ計量セスシテ給水スルモノヲ云フ

第二種 計量供給 水量ヲ計量シテ給水スルモノヲ云フ

第三條 前條給水ノ方法中其孰レニ依ルカハ獨リ水道事務所(以下單ニ事務所ト稱ス)ノ見込ヲ以テ決定スルモノトス

第四條 用水供給ハ晝夜不斷トス然レトモ火災、旱魃、不測ノ起事若クハ水道各部ノ秩序ヲ失スル等已チ得サル場合ニ於テハ其供給時間若クハ水量ヲ制限スルコトアルヘシ此場合ニ於テ生スル損失又ハ不便ニ對シ事務所ハ其責ニ任セサルモノトス

第五條 配水栓、水瓣、防火栓其他邸宅外ニ係ル水道器具ハ水道吏員ノ外何人タリトモ之ヲ開閉シ若クハ之ニ觸ルヘカラス

第六條 放任供給ノ用水ハ家事用若クハ特ニ指定スル

用途ノ外ニ使用スルヲ得ス

第七條 此規則ニ要スル式紙ハ渾テ事務所ニテ交付スヘシ

第二章 配水管及量水器

第八條 配水管ハ街路本管ニ接續スル枝管ノ水留栓以内ニシテ水道ヨリ邸宅内へ給水ノ爲メ伏設スル私有水管及其屬具ノ總稱トス但該枝管ヲ本管ニ連結スル接合環及該環ヨリ水留栓迄ノ間ニ係ル水管ハ配水管以外ニシテ事務所ノ所有ニ屬シ同所ノ費用ヲ以テ設置スルモノトス

第九條 配水管ハ渾テ事務所ニテ布設スルモノトス

第十條 配水管ノ修繕、改造、變更、擴張、増設又ハ撤去ヲナサント欲スルモノハ事務所へ申出ヘシ

第十一條 配水管其他ノ屬具ニシテ修補ヲ缺キ若クハ破損スルカ又ハ用水ノ汚濁、傷害、又ハ浪費ヲ醸生シ若クハ醸生スヘキ形狀ヲ認ルトキハ其起因ノ何タルヲ問ハス速カニ事務所ヘ報告スヘシ

第十二條 量水器ハ事務所ニテ供給設置シ必要ト認ルトキハ之ヲ引換又不要ノトキハ之ヲ撤去スヘシ但量水器ハ事務所ノ所有ニ屬シ同所ノ費用ヲ以テ設置シ借料ヲ徴シテ消費者ニ貸與スルモノトス

第十三條 水道吏員ハ配水管若クハ量水器検査ノ爲メ日出ヨリ日没ニ至ルノ間何時ニテモ配水管ノ設ケアル邸宅内ヘ立入ルコトヲ得又配水管若クハ量水器ノ修繕、改造變更、擴張、増設又ハ撤去ヲ要スルトキハ前項時間中隨時工事ヲ執行ス但シ配水管ニ破損ヲ生シ多

量ノ漏水ヲ發見スルトキハ本文時間外ト雖モ邸宅内ヘ立入工事ヲ執行スルコトアルヘシ

第十四條 水道吏員ハ隨時水量器ヲ點檢シ毎回前點檢ノ後消費シタル水量ノ調書ヲ作り消費者ニ交付スヘシ
若シ前項點檢ノ際量水器作用ヲ錯リ水量ノ記入ニ誤謬アルヲ發見シタル時ハ水道吏員ハ其旨水量調書ニ附記スヘシ此場合ニ於テハ前回點檢以後量水器ノ引換若クハ据換ヲ終ル迄ノ消費水量ハ前三十日間ノ平均消費高ニ準スルモノトス
渾テ量水器ヲ引換ヘ若クハ据換タルトキ水道吏員ハ其記入高ト共ニ該引換若クハ据換前ノ者ニ於ケル最終點檢以後消費シタル水量ヲ其調書中ニ併記スルモ

ノトズ

第十五條 消費者ニテ量水器ノ作用ニ疑ヲ懷キ之レカ
試験ヲ望ムトキハ事務所ニ於テ立會ノ上之ヲ試験ス
此場合ニ於テハ該試験ノ成績ヲ以テ終結ノ決定トス
前項ノ試験ニ於テ量水器過不足ヲ表スルトキハ其結
果ニ準シ水料仕拂未済ニ係ル消費水量ヲ訂正ス若シ
該器完全ニシテ其作用ニ瑕瑾ナキトキハ別ニ定ムル
試験手数料ヲ即日消費者ヨリ納付スルモノトス
第十六條 消費者ハ量水器ヲ保護シ傷害ナカラシメ且
ツ其外國ニ塵芥ヲ入ラシムヘカラス又常ニ水道吏員
カ點檢修繕等ノ爲メ該器設置ノ場所出入ニ容易ナラ
シムヘシ

第三章 用水供給及工費

第十七條 用水供給ヲ要スルモノハ第一式ノ書面ヲ以
テ事務所ヘ願出ヘシ

第十八條 事務所ハ前條ノ出願ニ基キ鉛工ヲ派出シ實
地臨檢ノ上費用豫算ヲ調製シ本規則書ヲ添ヘ出願人
ヘ通報スヘシ出願人此通報ニ接スルトキハ該豫算費
用ノ半額ト共ニ第二式ノ書面ヲ事務所ヘ差出スヘシ

第十九條 前條費用ニハ豫知スヘカラサル起事ニ備テ
ル爲メ豫算額ニ其百分ノ五ヲ加ヘ置クヘシ然レトモ
工費完納ノ際ハ職工賃、人夫賃及諸材料費ノ實費ヲ以
テ之カ決算ヲ爲スモノトス

第二十條 配水管取付工事竣工ニ至ルトキ事務所ハ拂
入未済ノ額ヲ示シ決算書ヲ出願者ヘ送付ス出願者ハ
本書送達ノ日ヨリ十五日以内ニ其金額ヲ完納スヘシ

第二十一條 第十三條第二項ノ場合ニ於テ配水管修繕、改造、變更、擴張、増設若クハ撤去並ニ之レニ附帶スル費用ハ消費者ニテ負擔シ要求書送達ノ日ヨリ十日以内ニ事務所ヘ納付スヘシ

第二十二條 船舶ノ使用ニ供スル用水ハ量水器ニ依リ供給ス

第二十三條 私有ノ防火栓ヲ設置セントスルモノハ事務所ヘ申出別段ノ定約ヲ取結フヘシ

第二十四條 事務所ヨリ特別ノ許可ヲ受クルニアラサレハ廁間洗滌用ノ爲メ導水スルヲ得ス

第二十五條 消費者其用水供給ノ廢止ヲ要スルトキハ必ス書面ヲ以テ届出ヘシ爾後新ニ出願第三式ニ依リスルニアラサレハ再ヒ給水セス

第四章 料 金

第二十六條 放任供給ノ水料ハ一戸人員五人以下一ヶ月(曆月ヲ云フ)ニ付金壹圓トス

一戸人員六人以上ハ一人ヲ増ス毎ニ金拾八錢ヲ加フ

第二十七條 計量供給ノ水料ハ(家事用ヨリ多量ノ水ヲ使用スル旅店、諸集會所、待合、下宿屋、貸座敷、飲食店、酒店、豆腐屋、洗滌店、染物屋、洗)一千「ガロン」ニ付金(浴室、諸製造所、牛馬車營業者其他ノモノ)一拾三錢トス其一ヶ月消費高六千「ガロン」ニ滿タサル

トキハ一ヶ月ニ付金壹圓五拾錢トス

但シ一ヶ月消費高六千「ガロン」ニ滿タサルモノト認

メタルトキハ事務所ノ都合ニ依リ量水器ヲ付セザ

ルコトアルヘシ

第二十八條 諸官衙、學校、病院等ノ類ハ第二十七條ノ例ニ依ル

第二十九條 營業用ニアラサル牛、馬及馬車用ニ供スル「例外用水」ノ水料割合左ノ如シ

- 一馬 一頭 一ケ年ニ付 金 貳 圓
- 一牛 一頭 同 金壹圓三拾五錢
- 一二輪馬車 一輛 同 金 貳 圓
- 一四輪馬車 一輛 同 金 參 圓

前項牛、馬、頭數及車輪數ハ給水出願ノ時及爾後異動アル毎ニ其時日ト共ニ書面ヲ以テ事務所ヘ届出ツヘシ

第三十條 「特別例外用水」ノ水料割合ハ一千「ガロン」ニ付金六拾錢トス

- 第三十一條 量水器借料ハ左ノ如シ
 - 一徑二分ノ一英寸量水器 一ケ月ニ付 金貳拾錢
 - 一同八分ノ五英寸同 同 金貳拾三錢

- 一同四分ノ三英寸同 同 金貳拾五錢
 - 一同一英寸 同 同 金三拾三錢
 - 一同四英寸 同 同 金貳圓八拾錢
- 第三十二條 量水器試験手数料ハ左ノ如シ
- 一徑二分ノ一英寸量水器 金 壹 圓
 - 一同八分ノ五英寸同 金壹圓貳拾五錢
 - 一同四分ノ三英寸同 金壹圓五拾錢
 - 一同一英寸 同 金壹圓七拾五錢
 - 一同四英寸 同 金 五 圓

第三十三條 船舶ノ使用ニ供スル用水ノ料金ハ一千「ガロン」ニ付金五十錢ノ割合ヲ以テ前納セシム但シ事務所ト特約ヲ結ヒタル場合ハ此限ニアラス

第三十四條 放任供給ニ係ル水料並ニ量水器借料ハ每

月十五日迄ニ其月分ヲ納付スヘシ但シ水料ノ計算ハ
毎月一日ノ現在員數ニ據ル其中途ニ於テ人員等ニ異
動アルモ水料ハ之ヲ増減セス
前項ノ納付金ハ一ヶ年分又ハ數ヶ月分ヲ前納ズルモ
妨ケナシ
給水ヲ始ムルトキ十五日以前ナルトキハ全月分共十
六日以後ニ係ルトキハ半月分ノ料金ヲ直チニ納付ス
ヘシ
給水ヲ止ムルトキ十五日以前ナルトキハ半月分共十
六日以後ニ係ルトキハ全月分ノ料金ヲ納付スヘシ
第三十五條 計量供給ニ係ル水料ハ毎月五日迄ニ其前
月分ヲ納付スヘシ
但中途ニ於テ給水ヲ止ムルトキハ其日迄ノ水料ヲ

直チニ納付スヘシ

第三十六條 工費及料金ノ計算ハ渾テ錢位ニ止メ四捨
五入ノ算法ニ據ルヘシ

第五章 違犯者處分

第三十七條 量水器借用者ニ於テ之ヲ毀損シ若クハ滅
失セシメタルトキハ借用者ヲシテ其價格ヲ七日以内
ニ辨償セシム但天災若クハ不可抗力ニ原因スルトキ
ハ此限リニアラス

第三十八條 事務所ハ左記ノ項目ニ該當スルモノアル
トキハ其配水ヲ停止スルコトアルヘシ

第一 水道ニ關スル工費并ニ料金ヲ各々指定ノ時
限内ニ納付セサルモノ

第二 水道吏員若クハ職工ノ所定時限内ニ邸宅内

ニ立入ルコトヲ拒ミ若クハ其職務執行ヲ妨クル
モノ

第三 故意若クハ不注意ヲ以テ用水ヲ濫費シ又ハ
他へ分與セシモノ

第四 本規則ニ違背セシモノ

本條ノ場合ニハ其違背ニ關係アル者ヲ發見スルト否
トヲ問ハス直チニ之ヲ執行ス

第三十九條 前條配水停止ハ其違背ノ廉ヲ釐正シ不都
合ナキヲ認ムル迄解除セサルモノトス
前項ノ場合ニ於テ違背者ヨリ既納ノ金員アルモ事務
所ハ之ヲ還付セス又停止ノ日迄ニ消費シタル水料其
他ノ料金ハ納付セシムヘシ

附 則

第一條 本規則ニ依リ各戸ニ配水管ヲ設クル能ハサル
モノ、爲メニ共用栓ヲ設置ス其規則ハ別ニ定ムル所
ニ據ル

第二條 本規則ニ依リ配水管ヲ設ケントスルモ其工費
一時ニ拂込ニ難キモノト事務所ニ於テ認ムルモノハ
特ニ一ケ年以内ノ月賦ニテ其工費ヲ拂込マシムルコ
トアルヘシ

但本文ノ場合ニハ事務所ニ於テ定ムル所ノ利子ヲ
工費ト共ニ拂込ムヘシ

第三條 前條ハ配水管ハ其工費并ニ利子ノ全部拂込ヲ
終ラサル内ハ事務所ノ所有トス又拂込ヲ完了セサル
中途ニシテ停水ヲ乞ヒ又ハ拂込ヲ怠リタルモノハ已
ニ拂込タル金額ハ事務所ノ所得トシテ之ヲ返付セス

書式

第一式

横濱市 町 番地ニ有之家屋へ今般配水相受
度候ニ付テハ配水管布設費用調査トシテ相當吏員
御派出被下度尤モ委細ノ義ハ其節陳述可致候也

明治 年 月 日

何 某

横濱市水道事務所

御 中

第二式

横濱市 町 番地ニ有之家屋へ配水管布設ノ
費用豫算書在封 附ヲ以テ御通報ノ趣承知致候
就テハ右豫算高ノ半額金 圓納付候間御收納被
下度候將配水管落成ノ上ハ該布設費全額支拂ノ爲

メ未済ノ金額納付可致候且又横濱市水道ニ關スル
諸規則一部正ニ落手致候就テハ同家屋へ給水ニ付
該規則渾テ遵守可致候也

明治 年 月 日

何 某

横濱市水道事務所

御 中

第三式

横濱市 町 番地有之家屋へ接続ノ配水管へ
明治 年 月 日以降用水配送相成度然ル上ハ同
家屋給水ニ付テハ横濱市水道ニ關スル諸規則渾テ
遵守可致候也

明治 年 月 日

何 某

横濱市水道事務所

御 中

○横濱市水道共用栓規則

- 第一條 共用栓ハ一家専用ノ給水装置ヲ設ケ能ハサルモノ、家事用ニ供スル用水汲取ノ爲メ設クルモノトス
- 第二條 共用栓ハ横濱水道事務所(以下單ニ事務所ト稱ス)ニ於テ其費用ヲ以テ公道又ハ私有地内ニ設置ス其位置ハ同事務所ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第三條 共用栓ヲ使用セント欲スルトキハ別紙甲號書式ニヨリ事務所へ願出鑑札ヲ受クヘシ
- 第四條 左ノ資格ヲ有スルモノハ共用栓ノ使用ヲ許サス
一 直接國稅ヲ納ムルモノ

一家屋ヲ所有シ地方稅市稅ヲ通シテ金壹圓以上ヲ納ムルモノ

一ヶ月金八圓以上ノ借家料ヲ仕拂フモノ
一 雇人三人以上ヲ使役スルモノ

第五條 共用栓使用者ニ異動アルトキハ別紙乙、丙若クハ丁號ノ書式ニヨリ事務所へ届出ヘシ

第六條 共用栓ノ使用ヲ止メント欲スルトキハ其旨事務所へ届出ヘシ

第七條 共用栓使用者ハ其組合ヲ以テ連帶責任トス

第八條 前條ノ組合六戸以下ナルトキハ總代人一名七戸以上ナルトキハ總代人二名以上ヲ該共用栓使用者中ヨリ撰定シ其姓名ヲ事務所へ届ケ出ヘシ
但總代人ニ交送アルトキハ速ニ其旨届出ヘシ

第九條 總代人ハ其組合中ノ水料ヲ取纏メ之ヲ納付ス

ル等共用栓使用上ニ關スル一切ノ事ヲ處辨スヘシ

第十條 共用栓一個ニヨリ供給スル用水々料ノ割合左ノ如シ

一六戸以下 一ヶ月ニ付 金壹圓

一七戸以上一戸毎ニ 同 金拾五錢

第十一條 水料ハ毎月一日ノ現戸數ニヨリ計算シ其月

十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ

但中途ニ於テ戸數ニ異動アルモ水料ハ之ヲ増減セ

第十二條 共用栓ノ使用ヲ初ムル時十五日以前ナルト

キハ其月全月分十六日以後ニ係ルトキハ半月分ノ水料ヲ其使用ヲ始ムル日直チニ納付スヘシ

第十三條 共用栓ノ使用ヲ止ムル時十五日以前ナルト

キハ半月分十六日以後ニ係ルトキハ全月分ノ水料ヲ

納付スヘシ

第十四條 本規則ニヨリ要スル式紙ハ事務所ニ於テ交

付スヘシ

第十五條 横濱市水道給水規則中本規則ニ抵觸セサル

條項ハ都テ共用栓使用者ニ適用ス

附 則

第一條 自己ノ都合ニ依リ共用栓ヲ私設セントスルモ

ノハ其工費ヲ自辨シ申込ムヘシ

第二條 前條ノ私設共用栓設置ノ許否ハ事務所ノ任意

トス

第三條 私設共用栓ヨリ供給スル用水々料ノ割合左ノ

如シ

一戸毎ニ

一ヶ月

金參拾錢

第四條 配水管布設ニ遠キ場所等ニシテ自家専用栓ヲ設ケ難キモノ又ハ家屋ノ改築等ニ際シ一時共用栓ヨリ用水ヲ汲取ラントスルモノハ調査ノ上事務所ハ特ニ鑑札ヲ交付シ期日ヲ定メ汲取ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 前條ノ特別鑑札ヲ交付シ給水スルモノ、水料ハ一戸ニ付一ヶ月金五拾錢ヲ任拂フヘシ

書式

甲號書式

横濱市水道共用栓使用願

一第何號共用栓

右共用栓私共何名ニテ使用致度就テハ御規則遵守可致ハ勿論使用中ハ何某ヲ總代人ト相定メ置水料納付其他使用上ノ事ハ右總代人ニテ總テ處辨可致若シ右總代人ニテ事故有之候節ハ更ニ總代人ヲ定メ御届可申上候此段連署ヲ以テ相願候也

住所

年月日

姓名印

同

同印

横濱市水道事務所

御中

乙號書式

横濱市水道共用栓使用者更迭届

一第何號共用栓
 右共用栓何某外何名ニテ使用致居候處何某儀本月何日
 限リ右使用相止メ候ニ付同人ニ代リ何某ニテ本月何日
 ヲリ使用相初メ候上ハ御規則ノ條々堅ク遵守可致候依
 テ總代人連署此段御届申上候也

住所

(先使用者)

姓名印

同

年月日

(新使用者)

同

同

總代人

同

同

同

同

横濱市水道事務所

御中

丙號書式

横濱市水道共用栓使用者増員届

一第何號共用栓

右共用栓何某外何名ノ組合ニテ使用致居候處私儀右組
 合ニ加入シ本月何日ヨリ同栓使用致度就テハ御規則ノ
 條々堅ク遵守可致候依テ總代人連署此段御届申上候也

住所

年月日

姓名印

同

總代人

同

同

同

同

横濱市水道事務所

御 中

丁 號 書 式

横濱市水道共用栓使用者減員届

一第何號共用栓

右共用栓私外何名ニテ使用致居候處私義本月何日限り
右使用相止メ候依テ總代人連署此段御届申上候也

住 所

年 月 日

姓 名 印

同

總代人

同

同

同

同

横濱市水道事務所

御 中

○水道常設委員組織權限

廿四年六月
條例第三號

第一條 市制第六十一條第一項ニ據リ水道事業ニ關ス

ル常設委員五名ヲ置ク

第二條 常設委員ハ名譽職市參事會員二名市會議員三

名ヲ以テ組織ス但名譽職市參事會員ノ内一名ハ水道

分掌ノ名譽職市參事會員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 委員ハ名譽職市參事會員又ハ市會議員ノ任期

中在職スルモノトス但シ名譽職市參事會員又ハ市會

議員ニ再選セラル、トキハ重選セラル、コトヲ得

第四條 委員長ハ水道事業分掌ノ名譽職市參事會員ヲ

以テ之ニ充ツ

第五條 委員ハ定時又ハ臨時ニ委員會ヲ開設スルモノトス

第六條 委員ハ市制第七十三條ニ基キ水道ニ關スル事業ニ付市參事會ノ諮問ニ答ヒ又ハ其事務ヲ處辨スルモノニシテ其事務ノ概目左ノ如シ

- 一 水道及水質ノ改良ヲ計ルコト
- 二 用水供給ニ關スル利害便否ヲ調査スルコト
- 三 買入品ノ善惡價格ノ當否ヲ調査スルコト
- 四 賣却品價格ノ當否ヲ審査スルコト
- 五 歲入出豫算ノ下調ヲナスコト
- 六 歲入出精算ノ下調ヲナスコト
- 七 金錢收支命令ノ下調ニ關スルコト

八 水料徵收方法ノ利否ヲ調査スルコト

九 防火栓及共用栓ノ創廢ニ付利害ヲ審査スルコト

十 工事設計ノ適否ヲ調査スルコト

十一 工事ヲ監督スルコト

○水道分掌者及常設委員報酬 三十三年四月
告示第四〇號改正

水道事務分掌名譽職參事會員ノ報酬額ハ年額金四百二十圓同常設委員ノ報酬額ハ年額金二百四十圓トシ明治三十三年度ヨリ施行ス但支給方法ハ市吏員俸給支給法ニ依ル

明治二十四年(四月)本市告示第二〇號ハ之ヲ廢止ス

○水道事業別經濟 二十三年六月
告示第八一號

本市營造物中水道事業ハ別ニ經濟ヲ立ツルモノトス

○水道豫算中目ノ流用 二十六年十月
告示第一一八號

本市水道歳出豫算中目ノ流用ハ市參事會限リ執行ス

○横濱市水道公債規程 三十二年四月
市報第三一九號附錄

第一條 横濱市水道公債ハ横濱市水道擴張費ニ充ツル
爲メ廣ク募集スルモノトス

第二條 此公債ハ貳百五萬五千六百圓ヲ限リ明治三十
年度ヨリ數年度間ニ漸次募集スルモノトス

第三條 此公債ノ利子ハ額面金額ニ對シ一箇年百分ノ
六トス

第四條 此公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札付ニ
シテ千圓五百圓百圓五拾圓ノ四種トス

但應募者又ハ所有者ノ望ニ依リ記名證書ト爲スコ
トヲ得

第五條 此公債募集方法ハ募集高ノ額面ヲ一時ニ拂込

ムヘキモノト募集高ノ額面ヲ數回ニ拂込ムヘキモノ
ト別チテ二種トス但シ其何レニ依ルカハ募集ノトキ
市參事會ヨリ公告スヘシ

第六條 前條ノ數回ニ拂込ムヘキモノハ其拂込金高ニ
對シ記名ノ假公債證書ヲ交付シ額面金額拂込ヲ終リ
タルトキハ公債本證書ト交換ス但假公債證書ハ賣買
讓受及抵當トナスコトヲ得

第七條 此公債元利金ノ支拂ハ本市參事會ノ選定シタ
ル取扱所ニ於テ取扱ハシム但取扱所ハ官報又ハ新聞
紙上ヲ以テ豫メ之ヲ公告スヘシ

第八條 此公債證書ノ見本ハ横濱市役所及各取扱所ニ
備置クモノトス

第九條 此公債ヲ募集スルトキハ其募集ノ期日金額及

價格申込日限并場所等本市參事會ニ於テ之レヲ定メ
官報又ハ新聞紙ヲ以テ豫メ之レヲ公告スヘシ

第十條 此公債ノ應募者ハ本市參事會ノ指定スル期限
内ニ應募金額及價格并ニ住所氏名ヲ詳記シタル申込
書ヲ市參事會ニ宛差出スヘシ

但シ第四條但書ニ依リ記名證書ノ交付ヲ望ム者ハ
前項申込ト同時ニ其旨市參事會ヘ宛申出ツヘシ

第十一條 此公債ノ應募者ハ申込書提出ノトキ市參事
會ノ指定スル割合ニ依リ應募額ニ對スル保證金ヲ取
扱所ニ拂込ヘシ但保證金ヲ拂込サル申込ハ無効トス
前項保證金拂込ミタルトキハ市參事會ヨリ領收證書
ヲ交付ス

第十二條 此保證金ノ領收證書ハ應募者ヨリ他人ニ賣

渡シ又讓渡スコトヲ得ス

第十三條 此公債應募高每期需用ノ額ニ超過スルトキ
ハ本市參事會ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次募入レ
需用額ニ滿ツルニ至リテ止ム其價格同シキモノハ申
込月日ノ前後ニ依ル申込月日價格トモ同一ナルモノ
ハ申込高ノ割合ニ依リ之ヲ減スヘシ但募入トナラサ
ル申込ニ對スル保證金ハ還付スルモノトス

第十四條 前條ニ依リ應募者定リタルトキハ同時ニ應
募金額拂込ノ期限并ニ場所ヲ通告スヘシ

第十五條 此公債ノ應募者ハ本市參事會ノ指定スル期
限内ニ保證金ヲ控除シタル跡金ノ拂込ヲ爲スヘシ但
應募金額ヲ一時ニ拂込ムヘキ場合ニハ跡金ヲ悉皆拂
込ミ又數回ニ拂込ムヘキ場合ニハ第一回拂込ノトキ

保證金ヲ控除シ其跡金ヲ拂込ムモノトス

第十六條 此公債應募金ヲ一時ニ拂込ムヘキ場合ニシテ其拂込期日マテニ拂込マサルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ利子ヲ徴ス拂込期日後三ヶ月ヲ過キ尙拂込ヲ了セサルモノアルトキハ其申込ハ無効トス此場合ニ於テハ其保證金ヲ還付セス

第十七條 此公債募集金數回ニ拂込ムヘキ場合ニシテ假公債證書ヲ交付シタルモノ跡金ノ拂込期日マテニ拂込マサルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ前條ノ例ニ依リ利子ヲ徴ス拂込期日後三ヶ月過キ尙拂込ヲ了セサルモノアルトキハ保證金トシテ拂込ミタル金額ハ還付セス

第十八條 保證金ヲ拂込ミ未タ跡金ノ拂込ヲ了セスシテ本人死亡シ又ハ身分ニ異動ヲ生シタルトキハ其相續人若クハ引受人ヨリ跡金拂込ノ旨ヲ書面ニ認メ市參事會又ハ町村長ノ證明ヲ得テ本市參事會ニ届出ツヘシ但引受人ヨリ申出ル場合ニハ相續人若クハ身分ニ異動ヲ生シタル者連署ヲ要ス

第十九條 公債證書ノ様式ハ市參事會之レヲ定ム但證書面ニハ此公債所有者ト横濱市トノ關係ハ此規程ニ於テ定ムルモノトス將來之レヲ改正(第四十八條ニ規定セル各條ヲ除ク)スルトキモ亦同シトノ旨ヲ掲ケ且此規程第三條第二十一條第二十三條第二十四條第二十六條第三十八條ノ規程ヲ摘録スルモノトス

第二十條 應募者ニ交付スヘキ公債證書ハ本市參事會

ニ於テ其種類ヲ定メ保證金領收證書及拂込金又ハ假公債證書ト引換ニ交付ス

記名證書ヲ交付スルトキハ市參事會ニ於テ其證書ニ證印シ且記名簿ト割印スヘシ其名前書換ヲ爲シタルトキモ亦同シ

第二十一條 此公債元金ハ明治三十年度ヨリ三十一年度迄二ケ年間据置明治三十二年度ヨリ向フ二十九年
度間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス其償還金額及抽籤ノ期日等ハ本市參事會ヨリ官報又ハ新聞紙ヲ以テ豫メ之レヲ公告スヘシ

第二十二條 此公債元金償還ノ抽籤ハ本市參事會ニ於テ市會議員三名以上立會ノ上執行シ其當籤證書ノ金額種類記號番號及仕拂ノ期日并場所等ハ市參事會ヨ

リ官報又ハ新聞紙ヲ以テ其時々之ヲ公告ス可シ但本公債證書額面五千圓以上ヲ所有スルモノハ抽籤ニ立會フコトヲ得

第二十三條 此公債ノ利子ハ毎年度六月十二月ノ兩度ニ半ケ年度分ツ、ヲ拂渡スモノトス
此公債ノ利子ハ元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニアルモノハ下半年ケ月分ヨリ十六日以後ニアルモノハ翌月分ヨリ起算シ當籤又ハ滿期償還ノトキハ其支拂期日ノ當月迄ヲ計算スルモノトス
公債証書發行ノトキ六ケ月ニ滿クサル利子ハ月割利札ヲ添へ証書ト共ニ交付スルモノトス

第二十四條 此公債ノ元利金ハ各取扱所ニ於テ證書又ハ利札引換ニ其持參者へ支拂フ可シ但記名證書ノ元

利金ハ其記名者ニ支拂フ可シ

第二十五條 此公債ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ其

所有者利札ヲ截斷シ取扱所ニ差出スヘシ

第二十六條 無記名證書ヲ記名證書ニ若クハ記名證書

ヲ無記名證書ニ變換セントスルトキハ請求書ニ公債

證書ヲ添ヘ市參事會ヘ差出スヘシ

第二十七條 記名證書ノ賣買讓與ヲナシタルモノハ双

方連署ノ請求書ニ公債證書ヲ添ヘ市參事會ヘ差出シ

名前書換ヲ請フ可シ但正當ノ理由ニ依リ讓渡人又ハ

賣渡人ノ連署ヲ以テ請求スルコト能ハサルトキハ請

請求書ニ其事由ヲ詳記シ變渡又ハ賣渡ニ關スル證書

ヲ添付ス可シ

第二十八條 記名證書ノ所有者死亡若クハ逃亡シ跡相

續人ニ於テ其財産ノ相續ヲ爲ストキハ相續人ハ請求

書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證明スル市參事會又ハ

町村長ノ與書ヲ受ケ親戚二名以上連署シ公債證書ト

共ニ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ

第二十九條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ

アラスシテ證書ヲ讓受ケタルモノアルトキハ相續人

連署ノ請求書ニ市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ケ市

參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ但相續人ナキト

キハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人トナシ且

ツ相續人ナキ事ヲ證明スル市參事會又ハ町村長ノ與

書ヲ受ク可シ

第三十條 記名證書ニシテ裁判上ノ處分ニ依リ其所有

權ヲ得タルモノハ請求書ニ裁判所ノ證明書及公債證

書ヲ添へ市參事會ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第三十一條 記名證書ノ所有者改姓名ヲナシタルトキハ市參事會又ハ町村長ノ與書ヲ受ケ公債證書ト共ニ市參事會ニ差出シ書換ヲ請フ可シ

第三十二條 此公債證書及利札ヲ亡失セントキハ請求書ニ其亡失ノ事由及證書面金高記號番號等ヲ詳記シ保證人二名以上ノ證明書ヲ添へ市參事會ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請フ可シ

第三十三條 此公債證書及利札ヲ汚染若クハ毀損シタル爲メ代證書ノ交付ヲ請フトキハ請求書ニ公債證書ヲ添へ市參事會ニ差出ス可シ但其真正ヲ鑑別シ難キモノハ亡失證書ノ例ニ據ル

第三十四條 第二十八條第廿九條ノ場合ニ於テ同條規

定ノ親戚ナキトキハ親戚一名ヲ以テシ又親戚一名モナキトキハ請求書ニ其旨ヲ記載シ相當ノ保證人二名以上ノ證明書ヲ添付ス可シ若シ親戚アルモ證明ヲ拒ミタルトキハ其事由ヲ詳記シ市參事會ニ差出ス可シ

第三十五條 第三十二條第三十四條ノ場合ニ於テ保證人ナキトキ又ハ第十八條第二十八條第二十九條ノ場合ニ於テ市參事會又ハ町村長其與書又ハ證明ヲ與ヘサルトキハ請求書ニ其事由ヲ詳記ス可シ

第三十六條 亡失シタル證書記名證書ニ係ルトキハ亡失届出後滿五ヶ月ヲ過キ且一回ノ利金支拂期日ヲ經過シ無記名證書ニ係ルトキハ亡失届出後滿四ヶ年ヲ經過シ尙ホ發見セザルトキハ代證書若クハ代利札ヲ交付スルモノトス但本條ノ期間ニ於テ故障者アリタ

ルトキハ亡失届出人ニ通告シ所有權ノ確定スル迄代
證書ノ交付ヲ停止ス

前項代證書ヲ交付シタル後紛失證書又ハ利札ヲ持參
スル者アルモ之ニ對スル元利金ハ一切支拂ハサルヘ
シ

第三十七條 元利金支拂ノ期日前一ヶ月間名前書換停
止ス

第三十八條 其公債證書又ハ利札ヲ亡失シタルトキハ
市參事會ニ届出ツ可シ其發見ノトキ亦同シ前項ノ場
合ニ於テ市參事會ハ直ニ官報又ハ新聞紙ヲ以テ之ヲ
公告ス可シ但公告料ハ届出人ノ負擔トス

第三十九條 保證金領收證書ノ亡失汚染毀損ニ關シテ
ハ記名公債證書ノ例ヲ準用ス

第四十條 亡失届出ノ證書又ハ利札ヲ取扱所ニ持參ス
ルモノアルトキハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知
シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經所有權ヲ證明ス
ルヲ待チテ其取扱ヲナスヘシ

第四十一條 記名證書所有者ハ市參事會又ハ町村長ノ
證明ヲ得テ其印鑑ヲ市參事會ニ差出ス可シ其改印改
姓名ヲナシタルトキ亦同シ市參事會又ハ町村長ニ於
テ前項ノ證明ヲ與ヘサル場合ニ於テハ其旨ヲ届書ニ
詳記ス可シ

第四十二條 第三十六條ノ場合ニ當リ既ニ當籤又ハ滿
期ニ係ルモノハ代證書又ハ代利札ヲ交付セス直ニ元
利金ヲ支拂フ可シ

第四十三條 此公債證書ノ當籤又ハ滿期償還ノトキ拂

渡スヘキ利子ノ六ヶ月分ニ滿タザルモノ及第四十二條ニ依リ拂渡スヘキ其證書ノ元利金ハ領收證ヲ徴シ其支拂ヲナスモノトス

第四十四條 此公債元金ハ當籤又ハ滿期償還告示ノ日ヨリ三十日以内ニ取扱所ニ於テ支拂フ可シ

第四十五條 第二十六條乃至第三十一條ニ依リ書換ノ手續ヲ終ラサル間ハ市ハ其證書記名者ニ對シ償務ヲ負擔ス

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ其請求人ヨリ相當ノ費用ヲ市參事會ニ納メシムルモノトス

一新規記名

一記名除却

一代證書交付

一記名變換

第四十七條 第二十六條第三十二條第三十三條ニ依リ交付スヘキ代證書及代利札ハ本人ヨリ領收證書ヲ徴シ之ヲ交付スルモノトス

第四十八條 本規程第三條第二十一條第二十二條第二十三條ノ規定ハ之ヲ更正セサルモノトス

○橫濱市水道公債募集及償還方法

第一條 橫濱市水道擴張ニ充ツル爲メ額面貳百五萬五千六百圓ノ橫濱市水道公債ヲ募集スルモノトス

第二條 此公債ハ額面金高壹百圓ニ付金九拾圓以上ノ價格ヲ以テ募集スルモノトス

第三條 此公債ノ利子ハ額面金額ニ對シ一箇年百分ノ六ト定メ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スヘキモノト

ス

第四條 此公債ハ明治三十一年度ヨリ同三十四年度ニ至ル四箇年間ニ於テ之ヲ數回ニ募集シ總計貳百五萬五千六百圓ニ滿ツヘキモノトス

第五條 此公債募集ノ年割ハ明治三十一年度ニ額面四拾萬圓同三十二年度ニ額面四拾萬圓同三十四年度ニ額面百貳拾五萬五千六百圓トス

但水道工事ノ都合ニ依リ毎年度募集額ヲ増減スルコトアルヘシ

第六條 此公債ノ元金ハ明治三十二年度ヨリ向廿九年間ニ毎年水道收入金ノ内ニテ其年支拂フヘキ利子及經常費ヲ引去リ殘金百圓以上ニ至リタル分ハ抽籤法ニヨリ元金ヲ償却スルモノトス

但三年目ヨリ六箇年間ノ不足額ハ初年二年ノ殘餘金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第七條 此公債ノ利ハ水道收入金ヨリ支拂フモノトス

第八條 水道收入金ノ目的ハ給水規則ヲ改正シ從前ノ水料ヨリ三割以上ヲ増加シ初年ニ於テ金拾貳萬九千圓二年目ヨリ十三年目迄ハ年々人口ノ増加ヲ見込金六千圓ツ、増額スルモノトシ十四年目ヨリ二十年目迄ハ金貳拾萬七千圓ツ、收入スルモノトス二十一年目ヨリ二十九年目迄ハ水道事業ノ收入金ヲ繰入レルヲ以テ金壹萬貳千圓ツ、増額スルモノトス

但改正條約實施ノ際居留地給水規則ヲ改正スルモ収入金ニ増減ヲ生セサル見込ナリ

第九條 此公債ハ初年ヨリ二十九箇年ニシテ元利金悉

皆償却ヲ終リタル上金拾萬八千五百壹圓參拾錢七厘ノ殘金ヲ生スヘキ計算トス
 第十條 第六條ノ毎年度ノ水道收入金若シ收入豫算ニ充タサル場合ニハ市費ヲ以テ之レヲ補足シ元利金ヲ償却スル、モ、トス

横濱市水道公債募集及償還年次表

○印ハ不足
△印ハ過

年期	収入	經費	市債償還元金	同六分利上	收支過不足額	市債償還額未
初年	二九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇
二年	一三五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	〇	四八,〇〇〇,〇〇〇	五二,〇〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇,〇〇〇
三年	一四一,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇,〇〇〇	一三三,三三六,〇〇〇	一九九,三三六,〇〇〇	二,〇五五,六〇〇,〇〇〇
四年	一四七,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	一三三,一八〇,〇〇〇	一六,一八〇,〇〇〇	二,〇三三,〇〇〇,〇〇〇
五年	一五三,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一三三,八八〇,〇〇〇	一四,八八〇,〇〇〇	二,〇四八,〇〇〇,〇〇〇

年期	収入	經費	市債償還元金	同六分利上	收支過不足額	市債償還額未
六年	一五九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一三三,二八〇,〇〇〇	八,二八〇,〇〇〇	二,〇三八,〇〇〇,〇〇〇
七年	一六五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一三二,六八〇,〇〇〇	一,六八〇,〇〇〇	二,〇二八,〇〇〇,〇〇〇
八年	一七一,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	一三二,〇八〇,〇〇〇	四五,〇八〇,〇〇〇	二,〇八一,〇〇〇,〇〇〇
九年	一七七,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	二四,五二〇,〇〇〇	一二七,四八〇,〇〇〇	〇	一,九五八,〇〇〇,〇〇〇
十年	一八三,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	三二,九九二,〇〇〇	一二六,〇八八,〇〇〇	〇	一,九三三,四八〇,〇〇〇
十一年	一八九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	三九,九一〇,六七二	一二四,〇八九,三三八	〇	一,九〇一,四八八,八〇〇
十二年	一九五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	四八,三〇五,三二二	一二一,六九四,六八八	〇	一,八六一,五七八,二二八
十三年	二〇一,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	五七,二〇三,六三一	一一八,七九六,三六九	〇	一,八三三,三二二,八一六
十四年	二〇七,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	六六,六三五,八四九	一一五,三六四,一五一	〇	一,七五六,〇六九,一八五
十五年	二一三,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	七六,六三四,〇〇〇	一一〇,一三六,六〇〇	〇	一,六八九,四三三,三三六
十六年	二一九,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	八六,八七二,〇四〇	一〇七,二七九,六六〇	〇	一,六一八,七九三,三三六
十七年	二二五,〇〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇,〇〇〇	九七,三三四,三三二	一〇三,六三五,六三八	〇	一,五四三,九二七,二九六

十八年	二〇七、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	八四、二六二二四	八七、八七三七七六	〇	一、四六四、五六一、九三四
十九年	二〇七、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	八九、一七三、七九七	八二、八二六、二〇三	〇	一、三八〇、四三六、七一〇
二十年	二〇七、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	九四、五二四、二三五	七七、四七五、七七五	〇	一、二九一、三六二、九二三
二十一年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一一一、九五、六六九	七一、八〇四、三三一	〇	一、一九六、七三六、八八八
二十二年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一一八、九二、七四一、九	六五、〇七二、五八一	〇	一、〇八四、五四三、〇〇九
二十三年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一二六、〇六三、〇六五	五七、九三六、九三五	〇	九六五、六一五、五九〇
二十四年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一三三、六二六、八四八	五〇、三三三、一五二	〇	八三九、五五二、五二五
二十五年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一四一、六四四、四九九	四一、三五五、五四一	〇	七〇五、九二五、六七七
二十六年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一五〇、一四三、一一七	三三、八五六、八七三	〇	五六四、二八一、二二八
二十七年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一五九、一五一、七二五	二四、八四八、二八五	〇	四一四、一三八、〇九一
二十八年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	一六八、七〇〇、八一七	一五、二九九、一八三	〇	二五四、九八六、三七六
二十九年	二一九、〇〇〇〇〇〇	三五、〇〇〇〇〇〇	八六、二八五、五五九	五、一七七、二三四	〇	八六、二八五、五五九
合計	五、五五五、〇〇〇〇〇〇	一、〇一五、〇〇〇〇〇〇	二、〇五五、六〇〇〇〇〇	二、三八五、八九八、六九三	〇	一〇八、五〇二、三〇七

備考

初年及二年ノ收支差引殘金拾貳萬貳千圓ハ三年目ヨリ八年目迄ノ不足金拾萬六千參拾六圓ニ充テ差引金壹萬五千九百六拾四圓ハ豫備ニ充ツルモノトス
 初年ハ明治三十年度ヲ以テ起算點トス
 收入額ヲ査定シタルハ初年ニ於テ明治二十八年年度ノ實收金九萬〇八百圓ヲ以テ基礎トナシ之ニ水料三割以上ヲ増加スル爲メ金參萬六千貳百圓ヲ加算シタルモノナリ
 次年ヨリ十四年目迄ハ毎年人口ノ増加スルニ隨ヒ現今ノ實況ニ依レハ年々一萬人ツヽ増加スルモノトシ

第十四類 水道 ○橫濱市水道公債書換手數料

二七六

比例ニ依リ此一萬人ニ對スル増加ノ水料ハ每年金六千圓ツヽナリ之レヲ加算シタルモノナリ

○橫濱市水道公債書換手數料 三十一年六月 告示第九六號

橫濱市水道公債規程第四十六條ニ係ル手數料其他左ノ通り相定ム

一新規記名 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便稅

一記名除却 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便稅

一代證書交付 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便稅

但本公債證書及假公債證書トモ其製造原價ヲ別ニ徵收ス

一記名變換 一枚ニ付金五錢 外ニ書留郵便稅

第十五類

瓦斯

○瓦斯常設委員組織權限 三十二年三月 告示第二三號

第一條 市制第六十一條ニ依リ瓦斯事業ニ關シ常設委員三名ヲ置ク

第二條 常設委員ハ瓦斯事業分掌ノ名譽職市參事會員一名及市會議員二名ヲ以ニ組織ス

第三條 委員ハ名譽職市參事會員又ハ市會議員ノ任期中在職スルモノトス

但名譽職市參事會員又ハ市會議員ニ再選セラル

第十五類 瓦斯 ○瓦斯常設委員組織權限

二七七

トキハ重選ヒラル、コトヲ得

第四條 委員長ハ瓦斯事業分掌ノ名譽職市參事會員ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 委員ハ定期又ハ臨時ニ委員會ヲ開クモノトス

第六條 委員ハ市制第七十三條ニ依リ瓦斯事業ニ關シ市參事會ノ諮問ニ答ヒ又ハ其事務ヲ處辨スルモノニシテ其事務ノ概目左ノ如シ

一 瓦斯製造ニ付屬スル諸築造物、諸器械等ノ營繕改良又ハ設備ニ關スルコト

二 既設瓦斯幹支管ノ保護伏替又ハ延長ニ關スルコト

三 公設街燈ノ創廢ニ關スルコト

四 瓦斯代ノ増減又ハ割引ニ關スルコト

五 瓦斯代及器械代ノ徵收ニ關スルコト

六 副產物ノ賣捌ニ關スルコト

七 鐵管、器械、器具、原料、藥品等ノ購賣ニ關スルコト

八 工事設計ノ適否ヲ調査スルコト

九 工事監督ニ關スルコト

十 諸入札ノ當否ヲ調査スルコト

十一 歲入出豫算及精算ノ下調ヲナスコト

十二 金錢収支命令ノ下調ヲナスコト

○瓦斯常設委員報酬額 三十二年三月 三十二年四月 三十二年五月 三十二年六月 三十二年七月 三十二年八月 三十二年九月 三十二年十月 三十二年十一月 三十二年十二月 三十三年一月 三十三年二月 三十三年三月 三十三年四月 三十三年五月 三十三年六月 三十三年七月 三十三年八月 三十三年九月 三十三年十月 三十三年十一月 三十三年十二月

瓦斯事業分掌名譽職市參事會員ノ報酬額ハ年額金參百六拾圓瓦斯常設委員ノ報酬額ハ年額金百八拾圓トス但支給方法ハ市吏員俸給支給法ニ依ル

第十六類

雜

○寄附ノ受領

二十四年四月 二十五年三月
告示第二九號 三月改正

本市ノ事業ニ對シ金穀物件並ニ勞力ノ寄付ヲ申出ルモノアルトキハ市參事會ニ於テ直ニ受領シ處分ノ上翌年度ノ初ニ於テ之ヲ市會ニ報告スルコトヲ得但見積金額參拾圓以上ニシテ將來維持上市費ノ負擔ヲ要スルモノハ此限リニアラス

○本町外十三ヶ町ノ事業ニ對スル寄附ノ受領

二十五年三月
告示第二八號

本町外十三ヶ町ノ事業ニ對シ金穀物件又ハ勞力ノ寄付ヲ申出ツルモノアルトキハ市參事會ニ於テ直ニ受領シ處分ノ上翌年度ノ初ニ於テ之ヲ區會ニ報告スルコトヲ

得但將來維持上市費ノ負擔ヲ要スルモノハ此限ニアラス

○横濱市救護所規則

三十四年九月
規則第一號

第一條 横濱市救護所ハ極貧ナル市住民ノ中ニ就キ獨

身ノモノ又ハ獨身ニ非ラサルモ餘ノ家人ト共ニ左ノ

各號ノ一ニ該當シ即時頼ル處ナキ者ヲ救助スル所ト

ス

一 重傷ノ狀況ニ在ル者

二 廢疾又ハ疾病ニ罹リ一身ヲ支フルニ足ル生業ヲ

營ム能ハサルモノ

三 六十年以上七十年以下ニシテ老衰シ一身ヲ支フ

ルニ足ル生業ヲ營ム能ハサルモノ

市住民中一號乃至三號ノ一ニ該當スル極貧ナル

非獨身者ハ餘ノ家人幼弱ナル場合及幼弱ニ非ラサルモ其所在不明ナル場合ハ特ニ前條ニ準シ救助ス

第二條 救助ノ必要止ミタルモノハ隨時退所セシム但救助中ノモノト雖トモ頼ルヘキ所アルヲ發見シタルトキハ速ニ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 第一條ノ救助ニ要スル費用ハ濟貧恤窮ヲ目的トシタル本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

但基本財産ノ收益ノミニテ不足ヲ來ストキハ市費ヲ以テ補フモノトス

第四條 行旅病人及ヒ其ノ同伴者并ニ行旅病人ニ準スヘキ者ニシテ其ノ筋ニ於テ定メラレタル相當ノ費額

ヲ受クル場合ニ於テハ此救護所ニ入所セシムルコトヲ得

第五條 窮民恤救規則ニ依リタル市内ノ究民ニシテ其筋ヨリ下附ヒラルヘキ限度ノ恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ヲ引當テ横濱市救護所ニ入所ヲ許可シタルトキハ其下附ヲ受クル恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ノ全部ヲ救護料トシテ徴收ス但其限度以上ニ要スル費用ハ濟貧恤救ヲ目的トシタル本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

第六條 棄兒養育法ニ依ルヘキ市内ノ棄兒迷兒遺兒ニシテ其筋ヨリ相當ノ養育米代及ヒ補助金ヲ下附セラレ、ニ於テハ此養育所ニ養育スルコトアルヘシ但其下附金以上ニ要スル費用ハ濟貧恤窮ヲ目的トシタル

第十六類 雜 ○横濱市救護所規則 ○究民救護所入ノ者使用料徴收其他

二八四

本市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

第七條 入所人ニシテ草取、掃除、洗濯、裁縫等所中ノ輕務ニ堪ユル者アルトキハ醫員ノ適當ト認ムル程度ニ於テ任意從事ヒシムルコトアルヘシ

第八條 此規則外ノ細則入所人心得其他ノ諸規程ハ市參事會之ヲ定ム

○究民救護所入ノ者使用料徴收其他 三十四年九月 告示第一三二號

究民恤救規則ニ依リタル市内ノ究民ニシテ其筋ヨリ下附セラルヘキ限度ノ恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ヲ引當横濱市救護所ニ入所ヲ許可シタルトキハ其下附ヲ受クル恤救米代及縣費補助金又ハ恤救米代ノ全部ヲ救護料トシテ徴收ス其限度以上ニ要スル費用ハ濟貧

恤救ヲ目的トシタル横濱市基本財産ヨリ生スル收益ノ範圍内ニ於テ之ヲ支辨ス

○出張名稱及位置 三十四年三月 同年六月 來ル四月一日ヨリ當市役所出張所ヲ設置シ其名稱位置及區域左ノ如ク之ヲ定ム 告示號外 告示號外改正

出張所名	位置	區域
横濱市役所青木町出張所	青木町九番地	神奈川町、青木町、淺間町、岡野町
同 根岸町出張所	根岸町千五百廿七番地	根岸町、中村町
同 本牧町出張所	本牧町二十三番地	本牧町、北方町

○入船町新設 三十五年一月 告示第三號

本市櫻木町横濱船渠株式會社埋立ニ係ル本市内田町及長住町地先海面埋立地町名入船町ト稱ス

第十六類 雜 ○出張名稱及位置 ○入船町新設

二八五

明治三十五年四月廿八日印刷
明治三十五年四月三十日發行

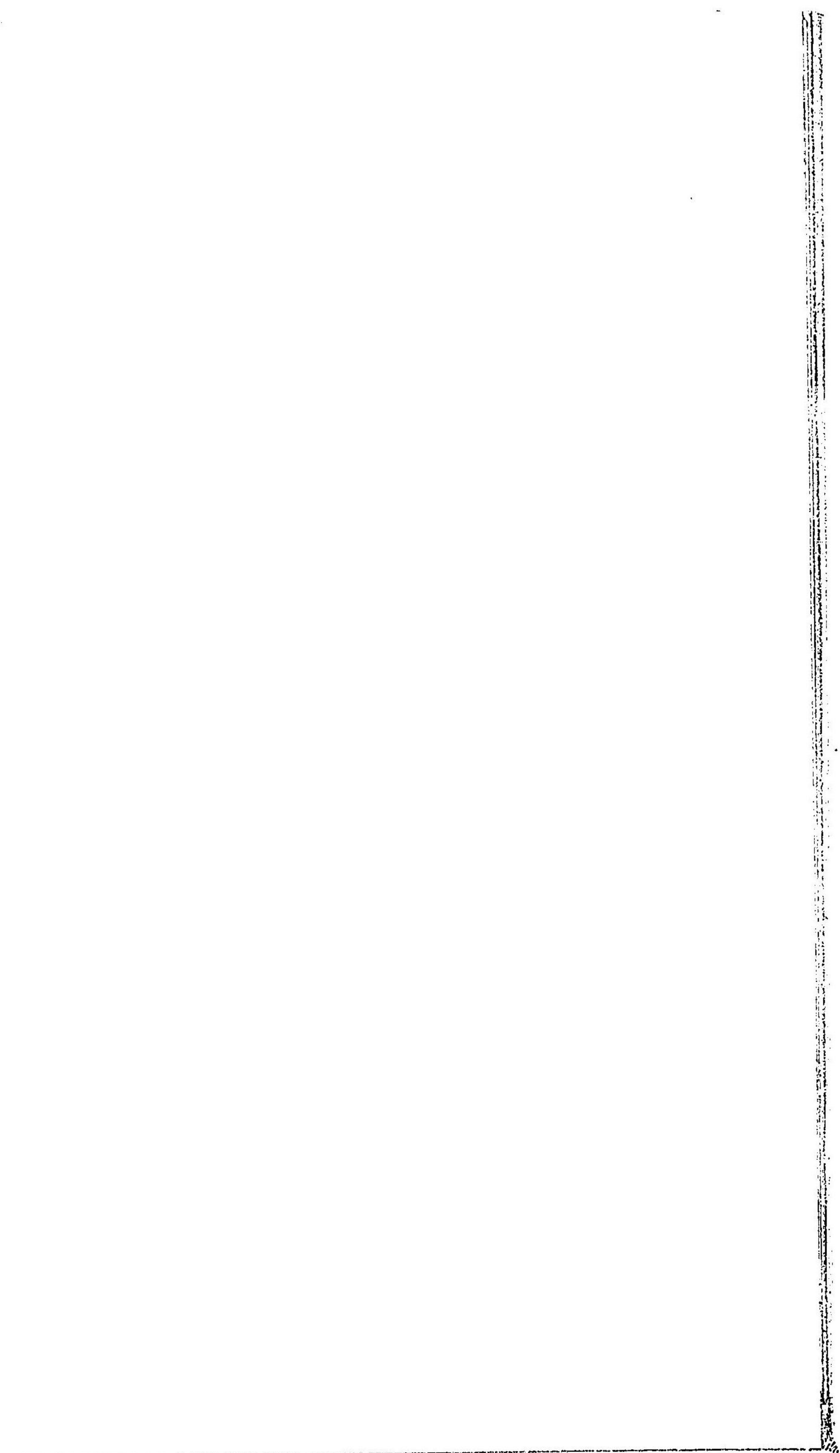
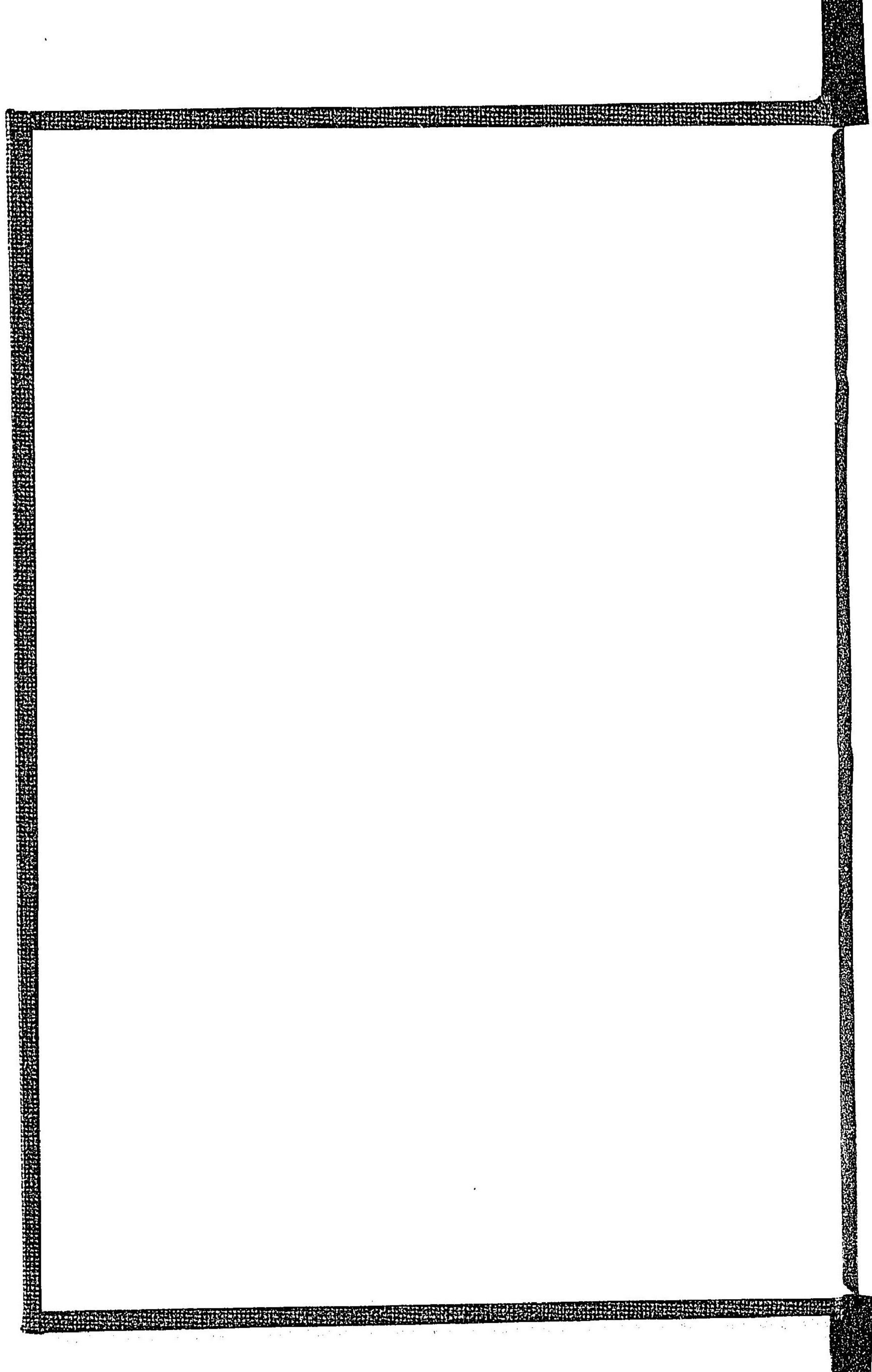
橫濱市役所

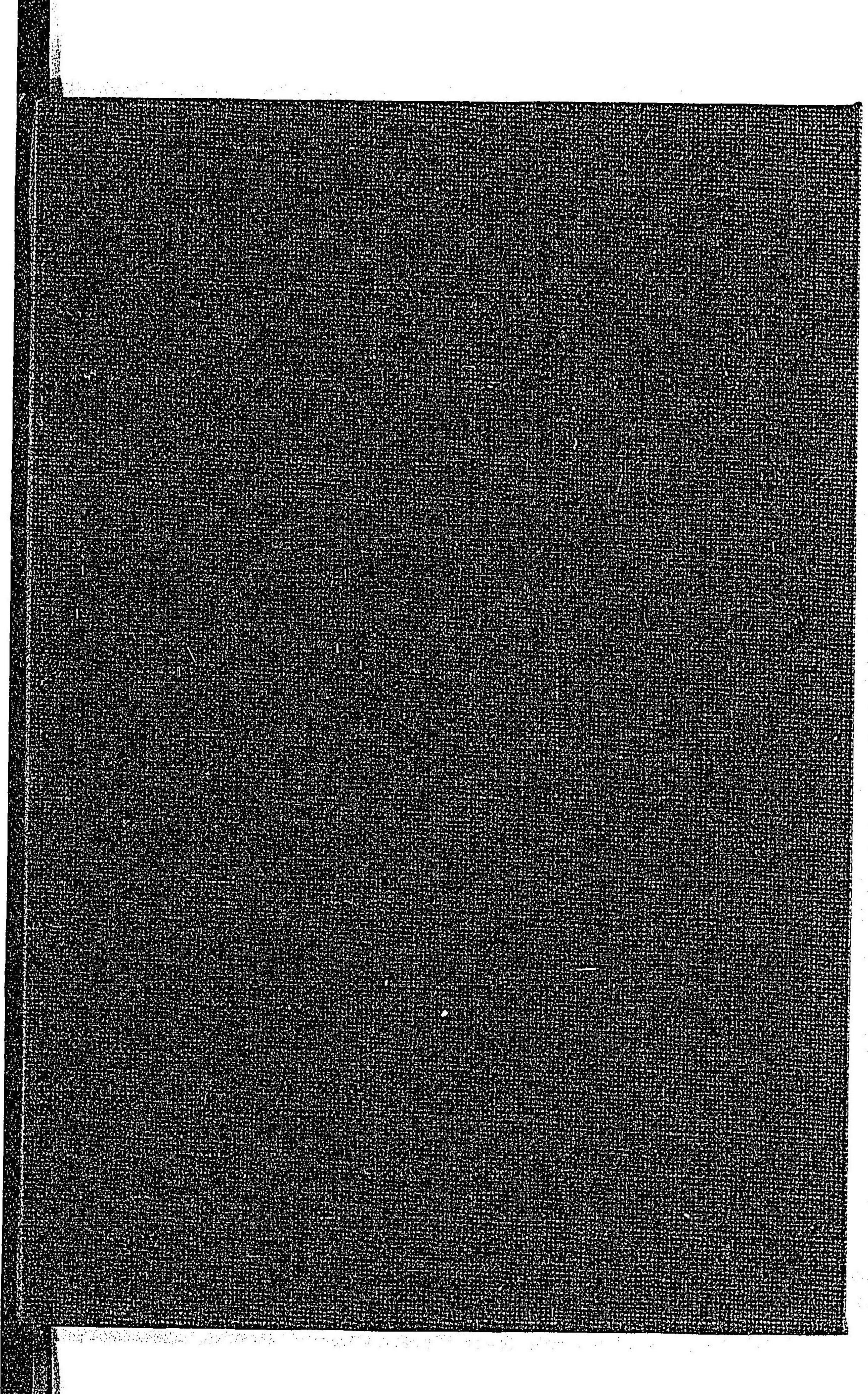
橫濱市南仲通四丁目七十七番地

南中舍

印刷者 藪 覺 次 郎

4# 120





禁電子式複写

031408-001-1

CZ-1113-42-01

横浜市例規類集

横浜市役所

M35, 40

BBD-0788



